

楽座新聞 目次

プロジェクト名 (チーム名)

区分(継続年度)

E新規

2019 年度は

展開しています。

İ	あかりんちゅ (あかりんちゅ)	S 継続 (2009 年~)
<u>LOCAL</u>	地域博物館プロジェクト (スチューデント・キュレイターズ)	継続 (2012 年~)
食	とよさと快蔵プロジェクト(とよさと快蔵プロジェクト)	E 継続 (2004年~)
P	子ども学習支援サポーターズ (子ども学習支援サポーターズ)	E 継続 (2018 年~)
0	廃棄物バスターズ(廃棄物バスターズ)	E 継続 (2005 年~)
**	かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-(かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-)	E 継続 (2012 年~)
S	田の浦ファンクラブ学生サポートチーム (田の浦ファンクラブ学生サポートチーム)	E 継続 (2013 年~)
Tacloban	タクロバン復興支援プロジェクト (タクロバン復興支援プロジェクト)	E 継続 (2015 年~)
~	障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト(ボランティアサークル Harmony)	継続 (2004年~)
dlh	BAMBOO HOUSE PROJECT (BAMBOO HOUSE PROJECT)	E 継続 (2016 年~)
卓	Taga-Town-Project (Taga-Town-Project)	継続 (2004年~)
	おとくらプロジェクト (おとくらプロジェクト)	継続 (2010 年~)
茶	政所茶レン茶゛ー (政所茶レン茶゛ー)	E 継続 (2013 年~)
魚	木興プロジェクト(木興プロジェクト)	継続 (2011 年~)
7	未来看護塾(未来看護塾)	E 継続 (2004年~)
<u>11</u>	たけともミライ (たけともミライ)	継続 (2012 年~)
××	フラワーエネルギー「なの・わり」(フラワーエネルギー「なの・わり」)	E 継続 (2005 年~)
(3)	とよさらだプロジェクト (とよさらだ)	継続 (2009 年~)
<u></u>	座・沖島 (座・沖島)	E 継続 (2016 年~)
-	内湖の再生と水辺のコーディネート (滋賀県大生き物研究会)	継続 (2011 年~)
益	Jesuit House Project (JH1730 CONSERVATION PROJECT)	E 継続 (2018 年~)

令和元年度 近江楽座活動報告号

近江楽座の22のプロジェクトが 活動をまとめた新聞です。

これらの新聞・ポスターは、基 本的にレイアウトが自由なので、 チームの個性がそのまま紙面に出 ていることも特徴です。楽座メン バーの自信作"らくざしんぶん" をぜひご覧ください。

※プロジェクト区分について

新規プロジェクト:平成 16~30 年度に、近江楽座の助成を受けたことがないチームによる取組

ハティヤール村カディプロジェクト(カディプロジェクト)

継続プロジェクト:平成 16~30 年度のいずれかに、近江楽座の助成を受けたことがあるチームによる取組

Sプロジェクト:「近江楽座」での実績をもとに、さらなるステップアップをめざすプロジェクトで、活動資金の助成を必要としないもの

Eプロジェクト:国連が提唱している「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成につながる課題解決を推進するプロジェクト。

とくに自分たちの取組を学校や地域等に普及することに力をいれている活動。

授業ャサークル とは ひと 味 違

マスコットキャラクター メイミイ

近江楽座は、"地域に根ざし 地域に学び 地域に貢献する"をコンセプトに、 滋賀県立大学が全学的に取り組んでいる独自の教育プログラムです。

学生主体の地域貢献活動

近江楽座の各プロジェクトは、 学生の興味関心や講義で感じた 問題意識、地域の課題などが元 になっています。先生や大学で はなく「学生」が主体なので、 キャンパスを越えた実践的な活 動を通して様々な学びを得るこ とができます!



大学が活動をサポート

採択されたプロジェクトに対し、審査の上で活動資金を助成して います。さらに教員やチームメンバー同士、近江楽座事務局など が連携して、活動の推進・発展を大学全体でサポートしています。

知る、伸ばす

22 のプロジェクトが県内外で活動!

まちづくり支援、意識啓発、ものづくり、環境保全、コミュニティ形成、

復興支援、発掘発信、社会福祉などなど、さまざまなテーマの活動が

チームの活動については、近江楽座紹介リーフレットや、チームのSNSを見てね!

どちらも「近江楽座ホームページ」からご覧いただけます。

近江楽座 ホームページ



http://ohmirakuza.net/

March 31, 2020 AKARINCHU NEWS

あかりんちゅとは

あかりんちゅとは、寺社などからやむなく廃棄されてしまう蝋燭、通称「残ろう」を回収・再利用し、手作りキャンドルの販売、キャンドルナイト・キャンドル作り教室の開催を行っている。モットーは「エコでスローな夜を。」

OKB street 6th Anniversary Candle Night



12月1日に岐阜県大垣市の OKB street 6 周年とイルミネーション点灯式を盛り上げるためキャンドルナイトを行いました。あかりんちゅは有難いことに、OKB street が出来て以来毎年呼んでい頂いています。今年の規模は例年と同様の 1000 個でした。今年度は「OKBstreet6th」の文字を中心に、季節感を意識した雪だるま、ハートや星をつくって豪華に演出しました。大垣共立銀行さんのお手伝いもあり、スムーズに、より良いものが作れました。セレモニー前から点灯していたため、セレモニーに集まったお客さんたちが声をかけて下さることもありました。訪れた町の方々には「綺麗だね」と喜んでいただけました。地域の盛り上げに貢献できる取り組みであったと感じています。また、地域に密着した活動として、継続的に参加させていただくことの重要性を感じました。

地域の声

2019 年、始めて滋賀県立大学のあかりんちゅさんの活動を 知り、私ども、浄土真宗本願寺派教禅寺の「お盆のつどい」 で、手づくりキャンドル教室を開催いただきました。

「お盆のつどい」には、幅広い年齢層の方にご参加いただきます。 今後も、あかりんちゅさんとは、良きパートナーとして、毎年の「つどい」にお手伝いをいただきたいと、あらためてお願いと、御礼を申し上げます。 (教禅寺さん)

手作りのキャンドルは温かみがあっていい。 (文化祭でキャンドルを購入してくださった方)

昔ながらの方法でエコなのに綺麗で素敵。

(キャンドルナイトにお越し下さった方)

あかりんちゅ自慢!

あかりんちゅの自慢といえば大きく言えば3つあります。

まずはSプロジェクトであること。基本的にはイベントを行った際の依頼料と販売の売上金で活動しています。

2つ目は県内外、どこへでも行って活動できること。材料は自分 たちが全部持っていくため、体験教室は平らなところとコンセン トが1つあれば活動できます。このため、様々な人との交流の機 会があります。

3つ目は様々な団体との関わりがあること。近江楽座の団体からキャンドルナイト用のロウソクを作ってくださる福祉団体のジョブカレさん、残ろうを集めてくださる滋賀教区浄土宗青年会さんなど、2つ目に挙げた特性上、様々な人と関わって活動していける団体です。

成果と課題

今年度はイナズマロックフェスに参加するなど初の試みも多く、あかりんちゅを知ってもらう機会も多かったといえるでしょう。キャンドル制作にも新たな工夫を凝らし、様々な形のキャンドルを作ることで子ども達に興味を持ってもらうことにも繋がりました。課題としては、キャンドルを買ってくれた方、キャンドル教室に参加してくださった方などに、あかりんちゅの活動の意義を積極的に伝えていく必要があるのではないかと考えます。

制作を行いました。 の古民家の実測を行い模型の 今年の夏季休暇中、奥伊吹

り、組み立てていきました。藁 り、材料などを集め、色を塗 見ることができるという利点 果、家の中と屋根を取り外し がありました。試行錯誤の結 うしても重くなってしまい、土 もありました。 家の中の間取りや様子をよく た。取り外し可能にしたことで 可能にすることで解決しまし がかかってしまうという欠点 台となる部分や柱の部分に力 葺の屋根のため屋根部分がど 実測をもとに、設計図を作

いました。 示したくさんの方に見てもら 完成した模型は湖風祭で展

地 城 博 粉 镀

べ、,地域博物館, 化財"や地域の歴史、文化などを住民の方々と共に調 あり、それらは地域文化財と呼ばれます。その,地域文 力の再発見をお手伝いしています 民具や古文書、お祭りなど地域には多くの文化財が を作り上げていくことで地域の魅

-0 -

〇年三月三十一日





っと聞いてよ!

活動場所が県内各地に!

⇒近江八幡、高島、米原など活動拠点が 滋賀県内各地にありいろいろなところに 行けます。

貴重な史料をその手で触れる!

古文書などの史料を手に取って でしかできない体験がで きます。

主な活動

調査、展示 白谷荘歴史民俗博物館(高島市マキノ町)

展 ・ビバシティ彦根(彦根市)博物館夏祭り出 東草野小中学校(米原市東草野)民具調査 西川嘉右衛門家(近江八幡市)調査、展示

冰

果

課

題

って様々な節目を迎える年とな りました。 今年度は、本プロジェクトにと

組織作りは来年度も課題だと考 業負担の一点集中もあったので 上手く機能しないことも多く、作 礎作りもできました。とはいえ、 いませんでしたがその組織の基 クトの節目の一つといえます。大 ェクトから、大人数プロジェクト 展示も行いました。少人数プロジ をすべて調査し終え、民具の学内 吹調査事業は今年で集めた民具 教科書の整理を進めました。奥伊 りました。白谷荘歴史博物館事業 衛門家での調査・展示事業が加わ へと転換したことも、本プロジェ は調査が終わり、膨大にある昔の 人数で活動する仕組みができて 新たな定例活動として西川嘉右

5 0) 7 メン

地

址

b

に立つと思います。 自身の将来に向かって何かお役にたっていただければと思っています。必ず活動は役 がら当館の資料を今まで以上に少しでもよりよく活用し、伝承していきます。学生の 後は、これまで以上に情熱不足・知識不足・アピール不足を若い皆様に補ってもらいな 謝しています。長年に渡り継続して携わっていただいていることに特に感謝します。今 皆様には当館での活動の中から地方の地域の歴史を少しでも身をもって感じてもらい 白谷荘歴史民俗博物館の内部資料の調査・整理・維持・保存に協力していただき感

白谷荘歴史民俗博物館館長 川島光男

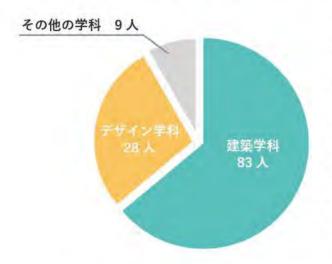
- プロジェクト紹介 - とよさと快蔵プロジェクト とはどんなプロジェクト?

とよさと快蔵プロジェクトは、豊郷町の地元住民で結成された「NPO 法人とよさとま ちづくり委員会」と協力しながら、豊郷町に残る空き蔵や空き家を地域遺産として捉え、 学生なりの視点で改修・再利用し、町を元気にしていこうと活動しています。

滋賀県立大学の環境建築デザイン学科の学生有志達が平成 16 年に結成し、今年度で 16 年目を迎えました。初年度には10名もいなかったメンバーも、今では100名越えの大 所帯となりました。空き家の改修事業を中心に活動を続けてきましたが、現在では改修 した物件をどうやって活用、残していくのか、その運営方法やその物件を使ったイベン トの企画・Bar の運営など、多岐にわたる活動をおこなっています。



ちょっときいてよ!プロジェクト自慢 100 人超えのプロジェクトメンバー



今年度プロジェクトメンバーが約120人となり、 より一層強固な団体となった。

環境建築デザイン学科	85 名
生活デザイン学科	28 名
環境政策計画学科	5名
国際コミュニケーション学科	3名
電子システム工学科	1人



チームのビッグニュース

久保川邸リノベーション「小人と暮らす家」







豊郷町高野瀬に位置している一軒の空き家。この物件は国道8号線に近く利便性の高い場所にあるため、家族向けの1棟貸し住宅に改修する 事業をおこなった。「小人の暮らす家」というコンセプトに合わせ、いたるところにミニマムな装飾を行い、細かな部分も楽しめる空間づく りに力を入れた。古材を積極的に用いることを目標とし、建具や家具のリメイクにも取り組んだ。

1年間の活動を通した成果と課題

この一年間活動をする中で一番大切だと感じたのは町の人やプロ ジェクトメンバーとのコミュニケーションだ。どの事業において も情報共有は欠かせないもので、話すことが相手への信頼につな がるものだと感じた。町の中で活動していくうえで、町の人々に 対して私たちの活動を伝えることはとても大事なことだと思った。 また 120 人が参加するプロジェクト全体をうまく回すというのは とても難しいことなのだと強く実感した。大所帯であることを大 きなメリットとしてうまく活動を統率できる方法を模索していく ことが今後も課題となるだろう。



北川稔彦さん

(NPO 法人とよさとまちづくり委員会代表)

今年、とよさと快蔵プロジェクトは、大町地区にある一戸建の物件を 3人家族に貸し出す住宅という設定で改修してくれました。改修案は、 グループごとに考えて、事前にプレゼンテーションを行い、「小人と暮 らす家」~広がる世界~に決まり、女性グループらしい夢のある温かな 改修をして行ってくれました。また、子供達とどろんこまつりも賑や かに開催してもらえました。先輩達もそうであったように、豊郷で活 動して、より豊郷に親しみを持ってくれることをうれしく思います。

学廿ポ新聞

子ども学習支援サポーターズとは。。。 彦根市内や愛荘町にて子どもの学習支援と居場所づくりのボランティア活動を行う学生の集まりです。現在、12名のメンバーで活動中!

楽しい食事を子ども達に!

2020年3月31日発行

「いただきます!」食堂に集まった人達の明るい声がした。2019年4月から8月頃まで木曜日の活動場所である、ブライトクラスの食事を学サポメンバーが担当した。毎週食材を買い、活動場所の調理室を借りて食事を作った。子ども達に楽しんで食事をしてほしいと、好き嫌いに合わせた調理をし、メニューも毎回変えるようにした。季節を感じられるようにと、夏頃には夏野菜カレーを作った。どんな隠し味を入れたのか当てるミニゲームをするなど、食べる以外でも楽しめるように工夫した。調理を手の空いているサポーターが手伝ってくれることもあり、サポーター同士の交流を深める場にもなった。





地域のお祭り子ども達と一緒に模擬店

2019年10月6日、20日に地域のお祭り(平田町ウィズフェスティバル、大薮町中地区文化祭)にて、普段の活動で関わる子ども達、地域・学生サポーターが一緒に、たませんとミニピザを調理し、販売した。子どもとサポーターがアイデアを出し合い、お店をきりもりし、休憩時間でほかの模擬店を見て回り、催し物を楽しんだ。一生懸命にお店をしたり、お客さんの笑顔にうれしそうに微笑む子どもたちの一面を見つけることができた。

成果と課題

多くの新メンバーが加わり、学習支援活動と、季節に合わせたイベントを行うことができた。今年も新メンバーを加えて、昨年度の振り返りを生かして活動していきたい。



地域の声

NPO 法人 Links の代表の柴田雅美です。子どもサポーターズのみなさん、今年1年も共に活動をしてくれてありがとう。心から感謝しています。私たち NPO 法人 Links は、この一年も学び育ち LL 教室、ひとり親家庭の子ども支援活動、愛荘町学習支援教室、かめのこ子ども食堂など多くの子どもの居場所活動を行なってきましたが、みなさんの存在がなくては活動が成立しませんでした。滋賀県立大学の子どもサポーターズとしてのオリジナルな企画や子どもサポートへの提案によって、居場所活動が安定的かつ革新的に活動ができたと思います。ハロウィンやクリスマス会の企画は子どもたちにも大人気でさすが子どもサポーターズでした。卒業していく子どもたちや大学生を送り出す「卒業お祝い会」は、コロナウィルス感染症の影響で実施できなかったことが大いに残念で心のこりですね。今年(2019 年度)は4月に多くのメンバーが加入されたこともあり、充実の一年になったのではないでしょうか。2020 年度も引き続き、たくさんのメンバーが彦根や愛荘町の子ども支援活動に力を発揮していただけると期待を膨らませています。これからもよろしくお願いします。NPO 法人 Links 代表 柴田雅美

Mother

Lake

しうム家まれ意及クこ製に

新聞

そ

0

他

の活

動

令和元年度 活動報告号

雨 水 化 目 を

をてサこ

実福イれ

現祉クま

し問ルで

もヘラを

ののン入

がアタれ 動

ラ

×

水

資

源

IJ

サ

1

7

ル

雨

水

な研の成 `二まを ど究み形実オし用

を夕協福 × チいリ

動

行丨力祉活

つのし事

てなを庭する識しがと造雨私水、利進水てそ夕るをの、サ本い社所に。との人各で・水た資災用し夕新しー技用活販イ団 ま会有小ま考向々家雨販タちの時がまンたての術い動売ク体 すをすさたえ上の庭水売ンが有のりしクに今製をてのにルは °目るな `てが環にタすク実効たラたを廃年品開も際貢プ廃 指よダ各い図境普ンるを際活め豪。作棄度化発強に献ラ棄 用の雨雨るプはにし度 `しンプ が貯等水プラ、成りを廃てタラで水にクロファガ+保棄き1ス きがよタロスこ功サ保棄きース ま可るンジチのしイつプたのチ す能水クェッ技まクこラ団開ッ で災はクク術しルとス体発ク 雨トかをたプのチで `か た予水をら用。ラでツす製らた予の。

め防再推雨い ンきクこ造り

用域水来ク 0 廃 行にはるにぺたた しの夕まを % 棄 いて成に成ッ °雨今 て方ンし成以 プ まサ形あ形クタ水年 頂にクた形上ラしンがたし、 くモを °す<u>合</u> ス たプ困りて^体クンは 予二量今るむチ °ル難廃い様試ク廃 定夕産後こ雨 ツそので棄たの作の棄 で丨しはと_水 ク の配あプだごに成プ ``が夕を結合つラき協あ形ラ °利地雨出シ 6果比たスまカたにス ■のたチしをり成チ **検めッた仰`功ッ** i `ク゜ぎユしク

を室です際ン

くでをか事事

琶 湖 守

5

琵

湖

犬

上

川

河

口

清

掃

活

し加たるマ以 しを多す琶 た者 °プイ上 `実賀 °湖現 °にこラクの 約 施工そで在 環のスロゴ 2 し場こも 境他チプミ_時まので発マ 問、ツラを間し皆我見イ 題環クス回のた様々さク の境製チ収清 °とはれ口 現教品ッし掃4共積問プ 状育がクまで8同水題ラ なを多のし計名で化視ス

ど実数発た₁の 、学さチ を施占生 ° 0 方清エれッ 伝しめ源ま₀が掃業てク え、まとた + 参活 (いが ま参しな、口 加動 ()ま琵 の夕考継をにを 輪」え続実協目来 てし行力指年 広をまてししし度 て域す積まて °極すい現 こ的。た時雨 のにそだ点水 知活参のけでタ っ動加他るのン てを`の企課ク い通発活業題の だし展動・の量 `さに団克産 廃せつ体服化 環棄るいのや・

リラのH サ祭清『彦地 イり掃 R 根地 クで活り駅域 ルの動E周頁 バ のゴやキ辺献 啓ミ `レの活 家拾よイ美動 活いさ隊化 動やこと活 1 をイいも動 行べ祭 にを つンり、な 0 てト・彦さ 展 い参ゆ根れ ま加る駅で 境物事で探活販 す者キ周い 意バーをおった。 °のヤ辺る

を年意視のでこ動 多会見点幹幹

た活 Zい者学 Sク ·動のての生 Z G 活

のは述らはを今 方登べ環我務年不必 に壇ま境々め度ツ賀 広しし問のま め我た題みし我に ま々 °にでた々 しの Sつ若 °は

て販、業 C い売リ所 g まやサと゜。た題プカ すメイ上現 ンク西^児 テル産 4 4 ナプ業 ンラ㈱つ



かみおかべ古民家活用計 画

柱として、地域の方と交流を図っていく活動をしている。

滋賀県彦根市上岡部町にある古い民家にて、①家の改修、②お楽しみイベントの開催、

③瓢箪づくり、

Sleeping Beauty

ローバルなイベントも開催している

案から企画、運営を行い、地域の方や古民家に関心のある方との交流だけでなく、海外からの留学生を招いたグ

古民家改修では、家の造りを学びながら学生自らの手で改修を進めている。イベントでは、学生のアイデアで発

留学生いらっしゃい!!

があった。 中国人留学生の訪れ 某月某日、上岡部 したイベントが催さ 上岡部の 節分に即 招くために豆まき た。 が行われ、縁起を扣 んと恵方巻きを ビンゴも行われ 鬼を退治、 福を

2020年3月31日 どして、楽しげな笑 顔に溢れた。地域の 子供達も、学生と紙

番号を読み上げるな 様だ。留学生は、 生からは中国の風習 作って食べた。 たものの、ビンゴの 着かない様子であっ 本の伝統家屋に落ち 文化交流になった模 ついてのレクチャ もあり、有意義な 留学

りたい。」と話す。 かしつつ今後も頑張 省点もあるので、 くの人に楽しんでも 参加メンバーは、「多 あいがうかがえた。 りと、積極的なふれ 古民家の庭で遊んだ らえて良かった。 飛行機を作ったり、 活 によって「家」として でである。 かったのが昨年

うに何度も確認しな

ていただいて、

しい戸車がはまるよ

難しかった。今後は

たりする作業が一番 がら削ったり補修し

こまめに潤滑スプレ

改修に希望の

度で「改修」というほ 現れた。環境建築デザ ジェクトに、救世主が ど改修ができてい み着いた蜂をどうに 家であったが、壁面 ますます痛みが激 だ記憶に新しい大型 代表その人である。 が かしたりといった程 木を何とかしたり、 くなる神岡部の古民 台風の影響もうけて ン学科に所属する 欠けていた本プロ 古民家の改修要員 度 ま 住

> メンテナンスを続 けたい。」と話した。 をするなどして、

能のための改修に気

必要な細々とした機

を配れるようになっ

、地域の声〉

たのだ。

車改修が行われた。

夏には引き戸の戸

,車とは戸の開け閉

おります。今後も継 めに古民家を活 さんには、地域の 続して多数の学生 をしていただいて しながら維持管理 話になりました。 「一年間大変お世 地域の方からは、 用

る。劣化し、動きにく

くなっていたものを

しい戸車に替え

の車輪のことであ めを容易にするため

さんに参加してこ す。」との声をい 化していけば良 枝地区を盛り上 かと願っておりま 又 たことがあげら して地域 イベント開

げた活動を行って いきたい。 全体へと視野を広 に参加できなかっ 地域行事に積極的 ができたことであ 交流を深めること 今年度の成果は 年の成果・課題 今後は上岡部町 課題としては、 の方との 所催を通

空いている穴を、

新

の上岡部町、

代表は「引き戸に

ものだ。

え、調節するという

田の浦まちづくりプロジェクトサポートニー

昨年度も私たち田の浦ファン

ビッグニュース

運動会in田の浦」が開催されま 心となって運営を行う「海の大 クラブ学生サポートチームが中

海 の綱渡りなど、子どもたちか 漁港を活かして、海の玉入れ、

らおじいちゃん・おばあちゃん



上の方が参加してくださいまし 行っています。昨年度は地域内 た。 外を問わず、なんと二〇〇人以 まで楽しめるユニークな競技を

ブ」が加わりました。これはペ に入り、息を合わせて前進でき アになって巨大なチューブの中 りました。 うもの。フラフラになりながら なく見ていた人たちも盛り上が も進む姿を見て、参加者だけで た距離を他のチームと競うとい また、新競技「アクアチュー

より一層パワーアップしたもの ないような運動会にするために、 を目指して企画していきます! 今年度はオリンピックに負け

プロジェクト紹介

成果と課題

ました。今では、 ポートチームは、 しながら、 町歌津田の浦地区の方々と協力 の被災地支援を目的に設立され 田の浦ファンクラブ学生サ 様々なまちづくり活 宮城県南三陸 東日本大震災

がりを育むことができます。 古民家活用プロジェクト」さん 湖風祭での出店など、 ンドルナイトなど・・・。 の活動も行いました。 と合同で行った防災イベントや、 り上げていくことの大切さを学 人柄に触れることで、 活動を通して田の浦の方のお また、昨年度は「かみおかべ 物理的な距離を超えたつな 地域を盛 滋賀県で

> 祭への出店や防災イベントの企 一人も入ったこともあり、 昨年度は新しいメンバーが一 湖風

や動画配信サイトでの情報発信 動を知ってもらうために、SNS

動を行っています。例えば海

きました。

今年度はもっと当チームの活

画・参加など、様々な活動がで

大運動会、クリスマス会、

+



2020年3月16日



2019年度の活動として、2018年度から進めてきた仮設教会兼コミュニティスペースの建設の続きを行い、完成にたどり着いた。完成した建物で子供達にペイントワークショップを開いたり、現地の暮らしを知るためにホームステイをおこった。しかし、年末にきた台風で建設した建物が破壊してしまった。

教会兼コミュニティスーペースの建設

昨年度から計画を進めてきたタクロバン北部の強制移住地区 NewHopeVillage(以下NHV)での、仮設教会兼コミュニティスペースの建設を行ってきた。竹の構造体を組み、屋根の仕上げ、床の土間叩きをおこない、建物の完成にたどり着いた。

建設では現地のフィリピン人と日本から来た学生が協力し進め、日本学生がフィリピン人に建設の指示を出したり、逆にフィリピン人が日本学生に力の使い方を教える姿があった。



現地フィリピン人と日本人学生の建設

建物の完成、現地の人とイベント



完成した教会兼コミュニティスペース

完成した建物は差し込む光が綺麗な空間となった。 完成と同時に、市役所の開催するヘルスチェックが建 物内で行われ実際に利用される姿があった。建物のみ ならず、竹の大きな開口の先にある広場をまたいで空 間が利用された。

現地コミュニティと共に建物を利用するワークショップをおこなった。現地の家にホームステイをおこない日本人は現地の暮らしを身をもって体感した。またイベントでは、フィリピン料理をコミュニティの方々に振舞ってもらい、子供達と建物のゲートに画を書くペインティングワークショップを、日本のNPO法人LESWORLDと共におこない、大盛況であった。



タクロバン市役所のヘルスケアチェック



ホームステイ先の家族と日本人



子供達とのペインティング WS

台風ファンフォン直撃コミュニティチャペル破壊、、

クリスマスはフィリピンで一番のイベントである。建設した建物でクリスマスが祝われるはずであったが、2019年12月24日に巨大台風がまたしてもタクロバンを直撃した。幸い怪我人はいなかったものの、台風によって建設した建物は無残にも破壊されてしまった。今年度末現地コミュニティとのミーティングをおこない、これからゆっくりとイベント行事等をおこないながら、場所をつくっていこうという話になった。



破壊されたのちに掃除された敷地

2013年11月にフィリピン中部を巨大台風が通過した。レイテ島タクロバンンは台風被害に加え、高潮の被害も受け膨大な被害を受けた。この巨大台風によって、高潮が発生し沿岸部貧困層居住地区の住居が流された。現地市役所はこの被災に対し沿岸部を住居禁止地区とし、半ば強制的に住民を街から外れた北部に移住させている。このような状況に対し我々は住民の目線で暮らしを見つめ、生活の調査・建物の建設を行う。地域の人たちと交流をし、調査・計していく過程でワークショップなどを行い、大学や住民を巻き込みながら建設することでコミュニティを育み、共に再建していくことがこのプロジェクトの目的である。

技々の住民目線で活動を行う姿勢として、タクロバンの人の生活を知ることが重要である。今回は現地の家にホームステイを行うことによって、普段では見ることのできない食卓の風景であったり、家の中での振る舞いを覗くことができた。現地の暮らしは簡素だが笑顔に溢れ、和気藹々と暮らしている姿があった。2泊のホームステイであったが、現地の家族に受け入れていただき、日本とは少し変わった貴重な体験となった。



景を覗

草の風

の食

N

年度の成果

 ∞





2017年度から計画していた仮設教会兼コミュニティスペースを完成することができたが、残念ながら台風によって早くも壊れてしまった。壊れた原因としては、予想以上の強さの台風が来たこともあるが、そのことを想定していなかった甘さに後悔が残る。壊れた後の現地でのミーティングでは、住民の方々がどのように建物を利用していたかなどを話していただき、自分たちがつくったものによって現地でアクションが起こっていたことがわかった。

来年度もこのコミュニティと共に、NHVの暮らしをつくって行きたいと思う。今年度おこなったイベントやホームステイを繰り返すことで、現地コミュニティを結束を深めながら、また場所づくりをおこなっていく。

していただきました。

ークル Harmony 新聞 (Harmony's News paper)

彦根から東近江に伝える福祉の環~

①チームのビッグニュース

のではないかと懸念しておりましたが、東近江市の市民の方や福祉職員 リピーターの方や障がい福祉施設の方は少なく、関係者のみの開催となる 立大学交流センターで開催していましたが、予約の都合上、 お借りする事になりました。そのため、例年当コンサートへ参加される コンサート』が東近江市やわらぎホールで開催されました。 昨年十一月三十日に17回目の『ハーモニー&メロディークリスマス 他の施設を 例年は滋賀県

ルのクックルーさん、そしてゲスト出演の大内さん(ギター演奏)に協力 ンアートのすっからか~んさん、県大吹奏楽部さん、県大ダンスサーク イベントは例年と同じく、県大アカペラサークルのトリトンさん、バル の方が興味・関心を持ち、参加してくださったことがよかったです。

みらい)も参加し、 のダンスショーには、 プリカ』を踊りました。 んなで米津玄師の『パ 毎年恒例のゆるキャラ 最後のクックルーさん (ひこちゅう、こども



《写真1》 ゆるキャラとパプリカを踊る様子

みなさんのご理解とご 状況ではありましたが 支援があったからこそ、 素晴らしいコンサート

になりました。来年度 もよろしくお願いいたします。

非とも協力したい」という非常にありがたいお言葉をいただきました。 も広がったのだと感じました。他の福祉団体・施設などの協力については、 メロディーの方と相談してから検討いたします。 当コンサートに参加された福祉職員の方から「今度開催するときは、 東近江市で開催した事で福祉の環が彦根だけでなく、他の地域の方々に 是

②プロジェクト紹介

長することを目的に NPO 法人「障害者の就労と余暇を考える会メロディ ー」の支援活動を行っています。 ボランティアサークル Harmony は障がいを有する人と学生が互いに成

> 者の方々)の呼びかけから始まりました。《写真2》 分からは、楽しいこと、おもしろいことを見つけるのが苦手な子どもたち 生じる障がい児・者とともに活動を行っています。Harmonyの活動は「自 る団体です。Harmony はメロディーに所属する特別支援学校・学級、作業 を図るとともに余暇活動をはじめとした豊かで充実した社会生活を支援す える会メロディー」の支援活動を17年間行っている団体です。 だけませんか」というメロディーのメンバーのみなさん(障がい児の保護 所などに通う自閉症やダウン症など他人とのコミュニケーションに困難が に、こんな楽しいことがあるんだなって感じてもらうお手伝いをしていた い者の願いを実現させるため、障がい者の社会参加を促進し、就労の自立 - は地域の人たちの理解の中で普通の生活がしたい、働きたいという障が ボランティアサークル Harmony は NPO 法人「障害者の就労と余暇を考 メロディ

動しています。子どもたちにとっての成長とは将来社会に出るために大切 支える地域づくりの推進もできればよいと考えています。 で、学生にとっての成長とは、活動を通して新たな発見をすることや、 となってくる社会性やコミュニケーション能力を身につけるということ 滑な活動の運営をするための能力を身につけるということです。 私たちは障がいを有する人と学生が互いに成長することを目的にして活 また、この活動を通じて地域の方々と交流することで、障がい児・者を



《写真2》油絵制作(2019年5月18日)

円

とても居心地の良いひと時のようです。リラックスして油絵を製作してい あります。わが です。これから ています。学生 の先生の指導助 る時はとてもい コンサート・お ちに感謝を覚え もったわが子らを色眼鏡で見ることなく、 入選しています。 Harmony ~ さんたちと共に活動し共に成長しあえる時間はとても貴重 い表情で集中して活動しています。指導してくださる美術 子にとって自然に接してくれる学生さんたちとの活動は、 泊り会などのイベントと、 ます。月一回の定例活動 もこの活動が続くように願っています。 緒に活動して、17年ほどになります。当初から障がいを 展覧会で作品を皆さんに見ていただくことも励みになっ 公募作品展「ぴかっ to アート展」に5年連続で (創作活動・油絵・茶道など)と 楽しいと思える活動がいっぱい 自然に接してくれる学生さんた

間の活動を通した成果と課題

矢野さん (メロディーの保護者)

どに費やす時間 縮小化されてい Harmony の活動は例年に比べ、 が増え、良い作品ができました。 るようにみえますが、定例活動の機会が増え、 カヌー体験や夏の宿泊体験がなくなり、 油絵制作な

な人格形成の場 スコンサートや宿泊体験も問題なく終わることができました。 それに伴い、障がい児・者と学生とのコミュニケーションが増え、新た 定例活動のみならず、 としてふさわしい人間関係を築くことができました。 メロディーの方々のご支援のおかげで、クリスマ

周し、今荘ぶどう園でブドウ狩り体験をしました。天候もよく、

快晴の空

8月11日にバス旅行を行いました。 今年は琵琶湖を

③ちょっと聞いてよープロジェクト自慢

~琵琶湖一周とぶどう狩り<

前年度と同様、

で食べたぶどうは障がい児・者と学生をつなぐ架け橋となってくれました。

また、バスの中でも普段会話しない人と会話できたり、琵琶湖をのんび

りと車窓から眺めたりと身体と心の健康を保つのに非常に有意義な余暇を

過ごせたと考えています。《写真3・4)

ますます活躍できるよう、

ったため、グルー

ープ全体に情報の開示を行うとともに、これからの活動が

地域へのPRをしっかりとしていきたいです。

まだ会計などの引き継ぎミスやケアレスミスが絶えなか

今後の課題は、

《写真3・4》 ぶどう狩りと琵琶湖

れるようになっ けのこ掘りのイベント が遊びにきたり、 的な伐採と公園のメン うな場所になっ が散歩しにきたり 竹林の全体計画を行 溢れ、やがて近隣の住宅街に たちが集まる場所に依頼が 授のもとにこの竹林をこども 悩みの種になっていた。 まで竹が侵入し、地域住民の 日本の放置竹林、 から当指導教員の陶器浩一教 湖南市の放置竹林も し問題を抱えていた。 した竹林は不法投棄のゴミ BAMBOO HOUSE 全国的に問題となっている が始動した。 この20-2年 んな活動? 竹林は毎年の定期

地域に認められる活動へ 台風を乗り越えの年目へ



菩提寺まちづくり協議会

た竹林が放課後にこどもたち た。よって、今では荒れ果て の人々が交流できる場を整 5年の3年間の間に、菩提寺 空間や機会をつくること して、地域住民が触れ合え 市の助成制度である「きら 「バンブーハウスプロジェク 年計画であった。プロジェ 湖南」の中に組み込ま の目的は、竹林整備を 近所の親子

域と大学での竹林整備のサ 交流という点からも長期的な 備を行えるようになった。 をお借りして、共同で竹林 れ、中学校の総合学習の時間 提寺の甲西北中学校に認めら スパンで今後も関わってい スが必要不可欠であり、 る。また、今までの活動が菩

> と密接になってしまったため、住宅街と れたことにより、「竹の庭」の奥側が住宅 の制作物「スクリーン」が昨年度に撤去 号はまた一段と魅力的になった。また過 いう考え方によりバンブーハウスー号、 声が多かったため、より強固に補修する かかった。「全解体」ということも覚悟し 決めて事前準備を行ったうえで作業にと 用して WS を行ったため、計画的に内容を 過したため、バンブーハウスー号、2号の の制作を行った。 目隠し兼遊具という目的で新築「竹浮 重ねると、「解体しないで欲しい」と言っ 地域の方々と何回も WS 前に打ち合わせ 大補修 WS になった。週末の短い時間を

2

2 1=

0) 街 +

今後はバンブーハウスも竹の生え変わり

のか、他の竹建築をどのタイミングで解 ら検討し、変化もあわせて「竹の庭」 もある。今後どういった場所へ変化させ としているため、躯体が枯れていく可能 になる。バンブーハウスは生きた竹を躯 期と呼ばれている8年に近づいていくこ し再構築するのか地域の方々と共有しな 3 性

域 X 子ども ×学生 地域に愛される為に

,甲西北中学校との合同竹林整備~



とどう関っているのか考えてもらう機会 しているかを意識してもらうことで、 ただ作業するだけでなく、 に地道に取り組む大切さと、中学生自身が 林整備を行った。今回は、身近な環境問 まで遊んでいた竹林を自分たちの手で整 とが多い。そのこどもが中学生になり、 竹の庭は小学生が放課後に遊びに来る 3年前から引き続き、中学生と一緒に 何を目的に活

会 動

ている。このこと自体が一つの成果であ 地道に活動を行ってきたことにあると考 り返れるようにして欲しい」とお願いさ 環境学習講話について再度、中学生と 先生が変わられて、昨年度までやってき たことによるものと考えており、背景には 「素晴らしい活動だから、 に取り組みたいという旨を伝えたとこ た。これは中学校にも活動の良さが伝わ また、今年度から、甲西北中学校の校 竹林整備後にも 2 振 te 長

放置竹林から学びの場へ

竹林整備範囲の拡大と Nature School ~

ことになった。もう一つは参加生徒が多面にわたったことである。 道な取り組みが、功を奏して生まれたことである。 ともあった。これら全て、これまでの先輩方や地域の方々との地 が、国際コミュニケーション学科の留学生も参加したいと言うこ 徒の参加も見られた。あいにくの悪天候で延期になってしまった ン学科のみであったのに対して、今年度は生活デザイン学科の生 生徒が参加してくれた。また、学内でも、今まで環境建築デザイ 嬉しいことに、取り組みを知って滋賀県立大学外の立命館大学の に根付いてきて、地域の方より「自分の竹林の整備もお願いした 林整備範囲が広がったと言うこと。長年活動してきたことが地域 い」と言った声が多数上がり、地域の区長さんより御長居される 今年度は物事が大きく動いた年でもあった。一つは、地域の竹

場として、「竹の庭」が使われた。子供たちが「竹の庭」で自然 と感じた。 地域にとっても、子供の遊び場と認められつつあるのではないか 子は、竹林が明るくなったことでできたことであると感じている。 に触れながら、色画用紙を使って自然の色について学んでいる様 さらに、地域で行われている Nature School という活動の学び この「竹の庭」が地域の人々に愛され、地域に寄り添ってこの



題 竹

地域の方からの声

1

今

滋賀県立大学の皆様と共同で始めたパンプーハウスプロジェクトも今年で 7年が過ぎ 平成24年度から提寺まちづくり協議会が借用して管理しています菩提区の竹林に、

12月にかけて多くの学生の皆さんに整備に来ていただき、 に認知してもらえる、足掛かりとなっており大変感謝しております。今期も 10月~ の中学生に環境講座の開催していただいていることにより、パンプーハウスが皆さん 材を受ける機会が有りました。これも、毎年継続して竹林に新しい施設や補修、地元 ただき、ありがとうございました。 一般財団法人環境イノベーション情報機構の方や、朝日新聞にも菩提寺まち協の取 施設の新設と補修をしてい

も認められていますので、今後とも継続してご協力をよろしくお願いいたします。 県立大学との共同の事業も今では、まちづくり協議会の事業として、地域の皆さんに

菩提寺まちづくり協議会 地域活性化委員会 委員長 浅井基義

九月二十二日、

以下 TTP) は、 Taga-Town-Project

学生からみた多賀のいい 犬上郡多賀町を拠点に、 滋賀県

ところや面白いところ

察会、そして、店舗のフ リーペーパを作成し、 ジェクトのお手伝いを を、発見・発信している。 さらに YOBISHI プロ SNS や HP の更新した。 二〇一九年度は、写真 クショップと星空観

年間スケジュ

新入生歓迎まちあるき

Fantastic Market 出店 (YOBISHI) カロム大会お手伝い

第一回写真ワークショップ YOBISHI 伝統料理教室 (ふなやきづくり)

(フムス、ソーダブレッドづくり) YOBISHI 伝統料理教室 ベストーネさん取材

稲刈りお手伝い(写真提供) 星空観察会

YOBISHI 映画会「よみがえりのレシピ」

YOBISHI ウモレボン市出店手伝い TTP 写真展@おとくら

YOBISHI おくどさんでご飯を炊こう 第二回写真ワークショップ 桃原ごぼう収穫祭 イベント手伝い 神あかり市

草津ファーマーズマーケット視察 佐川美術館·

YOBISHI みつろうラップづくり研修 高取山シイタケ菌打ち(写真提供)

YOBISHI みそづくり WS・だし WS YOBISHI 映画会「美味しいごはん YOBISHI 映画会「いただきます・ みそをつくるこどもたち

YOBISHI 映画会「おだやかな革命」

星空観察会

雨だったが、小学生十六人 行った。当日はあいにくの に出て、望遠鏡を使って星 リウムを作る工作を行った。 次に、紙コップでプラネタ 星についてのお話を聴いた。 まず、夏の大三角や七夕、 を集客することができた。 いただいた。最後に部屋を で出ている星の解説をして を見てレーザーポインター 途中晴れ間が見えた時に外 こぐま座とおおぐま座など、 大人二十人の合計三十六人 大滝小学校で星空観察会を 次回以降は気を付けたい。 保険を申し込むのを忘れて 工作も作って終わりのもの ほしい。」との声もあった。 「来年度以降も毎年開催して と言っていただけた。小学 ことになってしまったので おり、当日朝に慌てて入る 反省点としては、イベント だったので、長い時間楽し 生もお話のなかの質問に対 ではなく作成後遊べるもの に「星のお話」が良かった して積極的に答えていた。 リウムを照らした。 んでもらうことができた。 参加していただいた方々



SHI

Y 0

"

影した写真や、活動の中で撮った写真を用い、 多賀町立博物館、滋賀県立大学、 写真展」を開催する予定である。 公民館 多賀結いの森にて、二回のワークショップで撮 くらで春夏秋冬の多賀の風景をテーマに行った。 また、三月十四日から三月二十二日まで多賀町中央 [TTP

拓人 堀田裕介さんをアドバイザーに迎え、地域住民 月に開催された映画上映会では、 室や、ワークショップ、映画会などの企画運営を行 や行政職員が集い、様々なカタチで発信している。 から「食」を通して地域の魅力を伝える活動を料理開 運営に携わった。 り記録を残し、レシピブックのデザインを考えた。二 た。八月には、 チラシやワークシート、掲示物等の作成をした。 び)、おもてなしをする多賀の方言だ。滋賀県多賀町 店し、TTP は多賀の風景の写真を持っていき展示し 五月には、Fantastic Market に YOBISHI として出 TTP は、YOBISHI プロジェクトが主催する料理教 YOBISHI(よびし)とは、親戚や近所の人を招き(よ 料理教室のスタッフとして、写真を撮 スタッフとして企画

ジ



を開催

するなどして、成果物がたくさんできるようにしたい。 ったので、来年度以降はメンバー内で illustrator 教室 ってしまったのは反省点だ。成果物の数も昨年より減っ

数が減っ

うことができ、多賀の魅力を知ってもらえたかと思う。

かし、YOBISHI などのお手伝いが多くなり、主催イベントの

ただくことができた。さらに撮った写真を使い、写真展を行

てしま

ロジェクト自慢

影したか、ワークショッ を撮るだけでなく、印刷 らうことにもつながっ 域の魅力を再発見しても プを通して話すことで地 し、どのような場所で撮 プを二回開催した。 写真を撮るワークショッ 多賀の風景や人などの 写真



民館「多賀結いの森」、 写真展は多賀町中央公 ギャラリー喫茶おと

野部にあたる多賀学区の皆さんも多く参 められました。宇宙の中では小さな多賀 加され、星空や宇宙を通しての交流が進 の児童の皆さんとともに多賀町内でも平 町や大滝学区ですが、それぞれのすばら

また今回の星空観察会では、大滝学区

多賀町役場 生涯学習課 高橋進 加させていただいてありがとうございま

しさを学び直すすばらしい取り組みに参

した。またこれからもこうした取り組み

を通して地域がさらに活性化されていく

ことを願っています。

不と課題

うことができた。星空観察会では合計三十六名を集客するこ とができ、参加いただいた方から大変好評だった。 今年度は昨年より人数が増え、より多くの大きい事業を行 写真ワークショップでは、町内外から十五人の方に参加い

地域の声

いひと時を過ごしていただくことができました。 でしたが、星のお話やTTPの皆さんによる工作などで楽し は台風の接近などで実際の星を十分に見ることはできません 今回の のTTPによる「大滝小学校で満天の星を見よう」で

ばらし ていま 見上げることを通じて自分たちの暮らしている地域のすばら のすばらしさを知ることの大切さが言われるようになってき ばらしさや環境の大切さを知ったり、自分の住んでいる地域 どうしてできてきたのかを学ぼうというものでした。しかし 最近は星空や宇宙を見たり感じたり知ることで逆に地球のす しさを感じること、地域の歴史や特色を学んでいくことが大 したものが多く、今の世界(宇宙)がどうなっているのか、 これまで天文学の研究や普及というと、理科教育を目的と い自然があり星空もとても美しいところです。星空を す。大滝学区は過疎化が進みつつある地域ですが、す 切かと思われます。

おとくら新聞

おとくら10周年記念事業

おとくらは2019年度で10周年を迎えた。それを記念して、10周年記念事業を5つ行った。

①10周年記念メニューコンペ(8/10)

おとくらメンバー5 チームでコンペを行い、高宮地域の方々8人に審査していただきおとくら10周年記念メニューを決定した。『チーズケーキ&パイナップルミルクスムージー』が選ばれ、10月からおとくらで商品化された。

②10 周年記念コンサート・パーティー(9/22)

メンバーの手によって生まれ変わった宮尾邸にて、おとくらに関わるすべての皆様に感謝の気持ちを伝えるコンサートとパーティーを開催した。高宮地域の方々、おとくら関係者、OB・OGの方をお招きし、10周年記念メニューのお披露目やメンバー手作りの記念ムービーを上映し、みんなで楽しい時間を過ごした。

③おとくら 10 周年あゆみ展(9 月中)

ギャラリー輪々と喫茶全体を使って、おとくらの10年分の写真を年度ごとに展示した。

④おとくら 10 周年記念冊子の作成

⑤劇団ひととせさんによる公演(9/13~16)

おとくらプロジェクトってなあに?

おとくらプロジェクトは「ギャラリー喫茶おとくら」を活動の中心として地域活動への参加、イベント開催などによって高宮の地域活性化を目的としている団体である。喫茶運営が主な活動内容であり、シフト制でおとくらのメンバーがスタッフとして入っている。組織はイベント班、ギャラリー班、メニュー班、広報班に分かれている。それぞれイベントの企画・実行、毎月作家さんが変わるギャラリースペースでの展示、新メニューの考案、おとくら通信の発行や情報発信を行っている。

おとくら10年の歩み ~=p3で2pasb~





③あゆみ展



①メニューコンペ



②コンサート

成果と課題

今年度は例年に比べて大幅にメンバーが増え、イベントや普段の喫茶営業など、これまでよりも活気づいた。高宮小カーニバルへの参加や、高宮小学校 3 年生の授業協力にも参加することができ、小学生との交流を深めるなど、今年度は新たな取り組みが可能となり、交流の範囲を広げることができた。

また、今年度は 10 周年記念事業を 5 つ実施した。メンバーの 10 周年に対する気持ちは大きく、おとくら全体で大きな事業を成し遂げることができた。

課題は、おとくら主体の、高宮町に住む人を巻き込んだイベントを実施できていないことだ。声をかけていただいて参加する、おとくら関係者を集めてイベントを行うだけでなく、高宮町、中山道を盛り上げるために自分たちが企画、運営するイベントを実施していきたい。

おとくらの活動を通してたくさんの出会いがあり、貴重な経験もさせていただいた。おとくらプロジェクトが 10 年目を迎えることができたのは多くの方々のサポートがあってこそだと、強く実感した年であった。おとくらを支えてくださっている方々への感謝を忘れずに、これからもメンバー全員で楽しみつつ、おとくらの役割を考えて活動していきたい。

地域の声

今回はおとくら家主・応援隊長である加藤義朗さんからコメントを頂いた。加藤さんはおとくらを一番知っている家主さんであり、年度当初より「2019年は、おとくら10周年イヤー、何かしましょうよ」と提案してくださっていた。10周年記念イベント終了後には、「本当にみなさんの発想で、いいイベントになりましたね。また、当日花束のプレゼントもしていただきうれしかったです。」と語ってくださった。また、加藤さんは「いっぱいみなさんと行動を共にしてなぜおとくらが10年続いたか、答えがわかりました。それは、メンバーが変わってもみなさんがおとくらで楽しんでいるから!今年は、たくさんメンバーが増え久しぶりに男子も入り雰囲気最高です!まだまだ"おとくら進化中"を合言葉にこれからも楽しんでくださった。」とこれからのおとくらへの期待を寄せてくださった。

ちょっと聞いてよ!おとくら自慢

おとくらの自慢できるところは、挽きたての豆を使ったコーヒーを提供する喫茶店であると同時に「人と人をつなげる場所」としての役割を果たしていることだ。学生はお客さんとのおしゃべりを通して、様々な知識や知恵を得ることができ、その一方で学生は大学での経験や学んだことを話す。このように私たち学生はお客さんとの会話を楽しみながら営業している。

イナズマロックフェス出店

今年1年間を通して様々

方々に魅力を発信するため だ低くいので、たくさんの 店させていただき、政所茶 無料の試飲・茶葉の販売を 認知度は滋賀県内でもま 宣伝をしました。政所茶 イベントやマルシェに出 いました。その中でも今

は滋賀県下最大の音楽

の販売をしました。当日は雨 いただいて宣伝することが 多くのお客さんに足を運んで くない時間もありましたが が降ったり、天候もあまりよ 茶・ほうじ茶)の試飲と茶葉 ブースでは政所茶(煎茶・番 店することが叶いました。 ロックフェス2019」に出

政所茶の宣伝において できました。また、龍 非常に貴重な機会とな いただいたりしました。 だいたり、お話させて 上でお茶を飲んでいた プさんや藤崎マーケッ お笑い芸人のギャロ ことが出来ました。 で発表させていただく 神ステージという場所 トさん達にもステージ



り、奥永源寺渓流の里という道 あったことが印象に残ります。 げを達成することが出来まし 売を行いまして、目標の売り上 踏まえ、かなり気合を入れて販 となっています。昨年の経験も の駅で新茶を販売するイベント 永源寺で行われた新茶まつりで 茶ラテが完売するほどの人気で 新茶の初販売は活動場所の奥 何よりオリジナルのほうじ 政所茶の生産者たちが集ま

もいろいろなパッケージを試し 売してみたりしました。来年度 に金色のパッケージで煎茶を販 ケージを使ったり、目立つため 茶をイメージした緑色のパッ てみて理想の製品に近づけてい も試行錯誤した一年でした。 また今年はお茶のパッケージ

> お米は滋賀 好評でした。

産

の「み

が

発行 政所茶レン茶"-滋賀県立大学 近江楽座

活動報告新聞

茶刈りをしました。天候に 加者の方には後日、新茶を らうことが出来ました。 賑やかに行いました。三日 みでは、メンバーだけでな たくさんあります。 なっているのは茶畑 来上がりました。ここまで したが、大変良いお茶が出 量が少なくなってしまい 恵まれず、例年よりも収穫 た。新茶摘みが終わると番 お茶を飲んでいただきまし 郵送して自分たちで摘んだ 月大造知事にも参加しても く一般参加の方を多く募り 畑作業はお茶摘みをはじめ 一時間かけて通っています。 私たちの活動のメインと 年間

参

はお茶の収穫についての作 業でしたが、本当に苦労す

> 抜 が決まってくるので、手を この作業によってお茶の味 業となっています。 精神的にも非常に堪える作 これらの作業は体力的にも 集めてそれを畑に入れます。 や道の側溝にある落ち葉を まきます。落ち葉入れは山 量に稲刈り鎌で切り、畑に キ刈りは夏場にススキを大 入れ・草むしりです。スス るのはススキ刈り がず、 た。 みんなで頑 しかし 低張りま 落ち葉

お茶摘

者の意見はとても新鮮であきました。違う産地の生産 来年度も地道に頑張 かしていこうと思 り、今後のお茶づくりに活 方との交流を持つこともで にお茶づくりを行っ 今年は甲賀市で同 ります。 います。 ている じよう

ま

た。たくさんの方に買って 漬けを開発して販売しまし 所茶の番茶を使った、 学園祭である湖風祭では政

シ

ロップ

いただき大

した。 われているイベントにて 作を繰り返し、完成しま じ茶の粉を使用して、試 プを開発しました。ほう 夏にはかき氷の TTP の方々が行 シロッ

います。

商品開発を行いました。

今年度は政所茶を使っ

た

を ただだき 使って

地域の方の声

の畑作業と苦労

ると思うのでこれからも一緒に いしか帰ってこないなか、1年 ちの多くが、お盆やお正月くら 思っています。地元出身の人た う小さな集落に、定期的に通っ 頑張っていきましょう。 いることで、張り合いも出てい じようにお茶づくりに携わって 産農家さんたちも、若い人が同 るのは有難いです。政所茶の生 を通して政所を訪れてくれてい てくれているだけでうれしく 若い人(大学生)が政所とい

かります。 積極的に協力してもらえると助 政所の地域活性化にも、さらに 今後はお茶づくりだけではなく、

活動成果と課題

かったと思います。イベントの 機会が増えたように感じます。 できたことも大変良かったと思 年真剣に畑作業に取り組んでよ これは非常に嬉しいことで、今 出店も昨年度に増して積極的に の方々に声をかけていただける 茶畑で作業をしていると地域

なったことは反省し、来年度の の多くが参加しずらい環境と 画を立てるのが遅く、メンバー なってきます。しかし予定の計 作業に活かしていこうと思いま 業にはたくさんの人手が必要に 一方課題もあります。畑の作

宮城県本吉郡 南三陸町歌津

滋賀から通い続ける ジェク

木興プロジェクト

支援プロジェクトである。 学科・生活デザイン学科の学生による震災復興 木興プロジェクトは滋賀県立環境建築デザイン

りにし、建築やデザインを学ぶ私たちに何ができ るのか、 何かしなければという強い思いから立ち 上げたプロジェクトである。 東日本大震災という未曾有の事態を目の当た

活動を続けており今年度で九年目を迎える。 結成より宮城県本吉郡南三陸町歌津田の浦で

センター増改築等を行い、二〇一七~二〇一八 には鳥居、社の修繕を行った。 二〇一二年に地域の集会所であるニュー田の浦セ 二〇一一年、漁師の方々への番屋建設に始まり (以下センター)建設を行った。その後は

気仙沼社会福祉法協議会の方の紹介であった。 ネット副理事長である田中光一さんの知人である 田の浦との繋がりは現地で活躍されていた環人



サマースクール

田の浦での活動に区切りを…

田の浦での活動に区切りを

のかを考えた。 状が変わりゆく中で新しいも え定期訪問等での調査よりセ るものを如何に快適に使える のを提供するのではなく今あ 浜辺の鳥居を塗りなおして欲 付けるとの決断の下行われた。 ンの活動とした。 ンターのメンテナンス、センタ しいとの現地からの依頼に加 建設時の廃材の処分をメイ 被災地の現

居は当時の輝きを取り戻した。 を塗りなおすと同時に周囲の メンテナンスを実施した。鳥 いた。そこで色落ちした塗装 れ不足により廃れてしまって ったらしいが経年劣化や手入 で竣工当初は訪れる人が多か 意味を込めて建てられたもの 浜辺の鳥居は震災後鎮魂の

> まっていた廃材の処理を行った。 の取り換え等細かなメンテナ 年のサマースクールでは取っ手 拠点として使用されている。今 域の集会所、学生団体の活動 廃材処理により見通しが良く ンスとセンター横の山手に溜 以来増改築が成されてきた。 の人が来て欲しい。 私たちの活動を機に再び多く センターは二〇一二年の建設

な作業によりサマースクールで るべきことを考え自発的に行 の目標達成ができた。 って活動することによる効率的 動できたと思う。 責任感を持 が少なかったが一人一人がや 今年は去年と比べ参加人数 なり活動域が広がった。



繋がりを大切に

の不具合の確認を行い、地域の集 ではそれぞれの活動報告、施設 訪問した。四月、十二月の訪問 四月、八月、十二月に田の浦を まりであるお茶つこ会ではお母さ 今年度はサマースクールの他に

海の運動会では今年も学生と地

3

と約一三時間を要する。リアス式海岸特有の優 れた景観を持つ南三陸町の北西の沿岸に位置す

世帯数五六戸、

人口一八一人(平成二七

大学のある彦根からは約九〇〇km、

車で走るこ 私たちの

宮城県本吉郡南三陸町歌津田の浦。

田

の浦について

田の浦訪問

ん方とのコミュニケーションをとる有 意義な時間となった。

ともなっている。 も参加しにやってくる。 田の浦を ントにはプロジェクト外の家族連れ り上げることが出来た。このイベ 域の方が一体となってイベントを盛 知らなかった人と地域を繋ぐ機会

さる。本当に感謝の気持ちでいっぱ

受け入れ、見守り、支援して下

の浦の方々はいつも私たちを温かく

う感覚が強いと感じる。

そして田

いである。

はなく復興が進んできている証で る。しかしこれはマイナスな意見で 意味合いは薄れてきていると感じ もある。 田の浦に行きたいから行 田の浦への定期的な訪問は復興の 会いたいから会いに行くとい

を取り続けていきたい。

との出会いに感謝し、 築き上げてきたこの環境、

後も関係

(地元漁師 三浦清登さん)

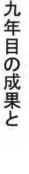
田の浦

以来九年という長い年月をかけて

私たちは地域の方と先輩が震災

地域の声

これからも長く付き合っていきたいです。 の皆さんにはいつも感謝しかありません。 震災で 明るくさせてもらいました。 本当に大好きです。 暗い気持ちでいる私たちの心とこれからの生活を を立てています。 えるのを楽しみにしています。 田の浦の皆さんと違って魚を採って生計 滋賀県立大学木興プロジェクト また会



関わり方を考えてきた。活動が大きな転換期 くぎりをつけることに決めた。 を迎える中、 活動当初と現在の状況は大きく変わり現地との 木興プロジェクトが活動を始めて九年が経った。 私たちは今年度で現地での活動に

関わることは無くなるだろう。しかし田の浦と え木興プロジェクトとしてハード面から田の浦に もまた田の浦に遊びに行くだろう。 みと感じる。 木興プロジェクトとしてではなくと 九年間で築いた関係性は深く濃いものだとしみじ サマースクールで本年度の課題としたことを終

カイブを作成を目指す。 来年度は私たちの九年間の活動をまとめたアー



ダラ、カレイ、アキザケ等が獲れることで知られ

陸の孤島となってしまい取り残された地区だった。

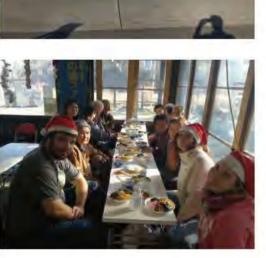
田の浦は震災当初道路が遮断され 行方不明者三人を出し五十五戸

死者一四人、

東日本大震災では一五m近い津波が押し寄せた。

ホタテ、ワカメが獲れ、 沿岸漁業では刺網漁でマ

で生計を立てている家が多い。養殖業ではホヤ、 年七月三一日現在)で昔から漁業が盛んで漁業











罗 鱼

世のグニ

知されるだろう、と考えこの活動が始まった。そ じ大学生からひろめていけば、次第に活動も認 あった。試しに他学科の友達に聞いてみると、ほ くらい認知されているのか」という疑問からで 2回県大にこに 知ってもらうことが大切と食堂に場所を絞り第 たい」という意見が出た、第1回県大にこにこ健 とんどが知らないという反応だった。そこで、同 始まりは、メンバーの 宋来看護塾は校内でどれ がついに、この滋賀県立大学校内で健康活動、県 考えさせられる結果になった。そこでまずは た。しかし看護棟に来た学生は十数名と少なく 康広場では看護棟に手洗いチェッカーを設置し してすぐに、メンバーの中で 看護棟に人を呼び 大にこにこ健康広場」を始めた事である。。まず 今年一番のビックニュース!それは未来看護塾

した。来年も寒い こ健康広場を開催 マッサージの血行促 場を開催するつもり に県大にこにこ健広 であるので、ハンド



T

のイベントのお手伝い、である。特に彦 じて私たちも入院患者との関わ させていただいており、この活動を通 ウスでは毎月ボランティア活動に参加 根市立病院、もりのこ保育園、ぽぽハ 城県南三陸町での被災者支援、地域 童向けイベントの企画と運営、地域住 でのボランティア活動、湖風祭での児 だいまえ保育園、NPO法人ぽぽハウス もこの団体の目標である。具体的な じて自身の看護観を磨くということ らせていただいている。また活動を通 健康を」と重なっていると考えられ、 SDG'Sの目標である すべての人々に をしている。また私たちの活動目標は 身体的、精神的健康を援助する活動 地域住民との関わりを重視しながら 民に向けた簡易的な健康チェック、宮 活動は、彦根市立病院、もりのこけん 滋賀県立大学のSDG'sの活動にも関わ 未来看護塾は滋賀県彦根市を中心に

いる。看護 ひ活動に参 る学生はぜ とができて いて学ぶこ の発達につ り方、児童 はどうだろ 加してみて に興味があ

今回声をいただいたのは、前年に引き続き、彦根市立病院で認知症デイケアを開 セージをいただいた。藤井さんのデイケアに参加すると、その言葉遣いや表情から イケアの開催にはなくてはならない存在として、感謝しています。」。というメッ トを用意して頂き、患者さん同様にとてもうれしい気持ちになりました。院内デ また、行事やゲームでは大いに盛り上げて頂き、ご家族も驚かれるような患者さ 人間対人間のコミュニケーションをとっている真摯な姿にやはり感動する。 んの笑顔をたくさん引き出してもらっています。また、クリスマス会では、プレゼン 催している看護師の藤井裕子さんだ。藤井さんからは 未来塾の皆さんには、院内 **ナイケアでお手伝い頂いています。認知症の患者さんに温かく手を添え、寄り添い**

ちょっと聞いてよ! 活動自慢

混ぜ、そこに色を足して混 作りは洗濯のりにホウ素を ほど人気であり、スライム て気持ちいい」と長居できる サージのブースは大人から ばハンドマッサージやスライ とてもたくさんある。例え あなたはバルーンアートを ム作りであるが、ハンドマッ 塾に入って得られる技術は ベビーオイルがあったかく こ存知だろうか?未来看護

るのかもしれない。そんな素直な心に触れ合える のが、未来看護塾の自慢である。 船が割れる恐怖に耐えながらもお花を作りたくな を腕につけてあげたときにみんな嬉しそうに あり がとう」と言ってくれる。そんな笑顔のために、風 気があるのはお花だ。色を選んでもらったり、お花 れるので、ぜひ試してみてほしい。逆に女の子に人 て倒れると男の子も女の子もこの上なく喜んでく あげよう。でも、斬られるフリをして「うっ」と言っ はしゃぎしているので、振り回さないように言って コは男の子に大人気!剣を作るときは子どもも大 アートにはたくさんの種類があり、定番の剣やワン のは、バルーンアートだ。なんといってもバルーン かし、何よりも子どもたちから人気ものになれる ぜるだけととても簡単で、子どもに人気である。

O)

することができた。こ 城県南三陸町田の浦で 学のメンバーなどと宮 ンクラブや東北福祉大 場)。また、田の浦ファ きた(県大にこにこ広 試みである校内イベン だけでなく、初めての て地域の健康イベント してくれたこともあっ れる1回生が多数参加 やる気と若い力のあふ れからはもっと未来看 大きなイベントで交流 トを開催することがで この1年間の活動では 海の大運動会」という

いきたいと思う。 より大きな団体にして を今一度確認しあって、 護塾内での決まりなど 体との連携や、未来看 るだろう。よって、各団 ていくことが予想され 護塾のメンバーが増え

の会所

2019年9月に行われた学生ワークシ

弥果



閉

り(23)と、初代たけとも~

度代表である大橋あ

カン

2020年1

9日の毎日

竹の会所友の会~会員であ

閉所

水・環境分野の新聞で、食料・

特別号 2020年3月31日 発行 文責:牧田

竹の会所のイメージ キャラクター

感謝と祈りを込めて学生が丁寧に解体 ~9年間ありがとう~

高橋工業の高橋和志さん行った。閉所式では、(株)ある竹の会所で閉所式を

感謝と竹の会所への別れを

地域の人々へのこれまでの竹の会所を解体する際に

のあいさつを頂いた。 る木村みなみさんに、

15日に、第二の竣工の姿で 告げるため、2019年9月

を襲った東日本大震災直後に、「地域のを襲った東日本大震災直後に、「地域の竹の会所は2011年3月に東北地方 ョップにより、私たち「たけともミライ」の い」という被災した人たちの嘆きを受け 復興に向けての話し合いをする場所もな て完全解体された。 活動拠点であり、大谷日門町民の拠り 所であった竹の会所が、9年間の時を経

> な賞を受賞したため、一年、また一 て大きく活躍し、建築業界でも様々

許可期限は3年であったが、その後こ 下り建設された。当初の仮設建築

仮設建築としてようやく許可が

建築は被災地復興のシンボルとし

ださった畠山淳さんと、今

たけともの活動は有意義な

込まれると思います。」と、 間の中で何らかの形で刻み

所の建設場所を提供してく

後、お二人を始め、竹の会ーチカットをしてもらった

器浩一に入り口部分のア と、滋賀県立大学教授の陶

ったとしてもこれからの時中でのほんとに短い期間だ中でのはんとに短い期間だ

この地域の皆さんの心の中の(=地域の方々の応援)も

ている時に直接なかったも

球未来賞」(毎 日新聞主催、

「第9回毎日地

てくださった畠山淳さんは

竹の会所の場所を提供し

どを表彰する 問題解決に取

第9回每日地球未来賞 表彰式 受賞記念講演会

皆さん(=学生)が活動し

のである。当時この地域は建材となる資 築を建てることを陶器さんは考えたが、 の拠点として、2011年9月に建てたも が学生とともに立ち上がり、地域の復興 竹は日本では建材として認められておら 源がなく、その場にあった竹林を使って建 て、滋賀県立大学教授の陶器浩一(57)

解体2年計画を考案し、実行した。別れを惜しみ、丁寧に解体しようと弘(25)は考え、地域の皆様とともに 与え続けた。 野をとどめ、皆の心に希望と勇気を 年と建築期限が伸び、今日までその 年度たけともミライ代表の山原康 そのような栄誉ある建築を、簡単 壊してしまっていいのかと、2018 学生の手で一つ一つ丁寧に解体 は何もない更地に戻すように、 りさらに1mほど上の部分でカッ トし解体したのに対して、今年度 会所の面影・形が残るように床よ 全解体期であり、前年度は竹の 今年度はその2年目となる完

を惜しんだ学生たちが端材を専り端材のみになった後、竹の会所 建物部分が完全に解体し終わ

初心に帰ったテント生活

週間野宿をしながら、時にはもなかったため、簡易テントで3 かに過酷な環境であったかを思東北の寒さは厳しく、当時がい持ちでテント生活を始めたが、 いないため、当時を振り返る気 中で当時を知るものは誰一人 想いで完成させた。今の学生の 台風に打たれながらもやっとの

▲解体終了後の竹の会所跡地

が、地域の方々は入れ、復興の象

この場所は一

般公開はされない

徴の場として、

これからもこの街

学生を受け入れるための施設 はつきり残っているところには、「建設当時、未だ震災の跡が 業を行った。

で壮大な様を体感した。こくときれいな青海や美しいくとされいな青海や美しい っていたのか。何とも言っの場所で会所は9年間な 加した学生の一人は語 い気持ちを感じた。」と った。参なた

竹の会所で行ってき喜びから、これまで

、制作中である。

行を目指して、学生

こととなった。



これからの

活動

ツト

していった。

▲竹の会所敷地にテントを張り生活した

竹の会所を解体し た今、学生たち」に な次のステップが待っ 活動集 たけともブックレ

ダイジェストにまとの方々や大学教授 、学生間で始動するレット(仮)」の制作が の方々や大学教授お世話になった地域 める「たけともブック たけともの活動を 言葉を添えながら は2021年4月発 ポイントである。 トに残すかも、注目 0 現在、ブックレット 制作

じて起こった出来事 たお祭りや展覧会 など、竹の会所を通 想い、何をブックレッ を中心にまとめてい く。また、現在活動 するたけともミライ 参加学生が何を

毎日新聞監修

类厕

社で開かれ、たけが毎日新聞大阪本 生である牧田弥果た陶器研究室の学 頂いた。 器教授が出席し、 ともミライに参加 する学生7名と陶 記念トロフィー 賞状と奨励賞受賞 授賞式に参加

ともミライ」という 浩一研究室 + たけ 受賞した。同年2活動名で奨励賞を て共通する何かを被災地復興に向け 野を研究している身 てもよかったです。 参加できて、こうし としてこの受賞式に きて、中々特殊な分 ついて深くお話しで 感じたり、秩父百年 させていただいてと てたくさんのお話を の森の皆さんと竹に

吉里国の皆さんとさん(20)は、「吉里

おいて、「陶器 クボタ協賛)に

▲喜びにあふれるメンバー

にある学外畑と工学部棟 を行った。収穫量は五 を有いが、地域の方々から もないが、地域の方々から もないが、地域の方々から もないが、地域の方々から もないが、地域の方々から もないが、地域の方々から もないが、地域の方々から もないが、地域の方々から もないが、地域の方々から 九年六月に三津町

ある。前年度リーダーであるが村氏やコアメンバーの 中口氏は数々の文献を調べ 中口氏は数々の文献を調べ 中口氏は数々の文献を調べ 中のの 上げ、部員を鼓舞し、今の ををはかかわらず、積極的に活 動に参加してくれた一回

▼今年度のなたね油

のメンバーの努力の結果で を怠らなかった直近二年間 的に見直し、こまめな管理 これまでの栽培方法を徹底 この成果は偶然ではない。

とてもおいしく頂きました。 いていてとてもきれいでした。 変わらず今日に至っています。 長い間学生さんもなれない作 大ぷらも上手に揚げられて、 当初より、約十五年余り 今年は菜の花がたくさんさ

昨年に引き続き、

天ぷら会 大好評

揚げた天ぷら

おら会」を行った。 を加数は十名程度 たで、ないで、 たで、ないで、 でで、ないで、 でで、ないで、 でで、ないで、 でで、ないで、 でいるので、 ので、 のがいるので、 のがいのが、 のがいるので、 のがいるのが、 のがいるのが、 のがいのが、 のがいの ぱら会」 津町公民

連携授業を行った。

高校生とバイオ燃料

県立虎姫高校二年生理系ク

八月二十日、二十一

なのわり特製 バイオ燃料 進学する際にはぜひ工学に ついて学んでもらえたと思う。 し、身近にあるエネルギーに 興味を持っていただきたい。

りを体験してもらった。つくつ

でなのわりとバイオ燃料づく

携授業を行った。授業の一 ラス十七名を招き、高大連

たバイオ燃料でエンジンを動か

では、 は課題であった。 学校出前授業ができなかったの 学校出前授業ができなかったの と考えている。しかし、小 の増加」「新事業開拓」の3 は課題であった。

は、植物を使った資源循環型社会の形は、植物を使った資源循環型社会の形は、植物を使った資源循環型社会の形は、植物をバイオディーゼル燃料を作っている。また、この取り組みや環境問題を小学生・高校生をに知ってもらうために、出前授業や高大連携授業を行っている。加えて、科学実験の楽しさを体感してもらうイベントを各地で開催している。出前授業のでもらうために、出前授業や高大連携授業を行っては、植物を使った資源循環型社会の形は、植物を使った資源循環型社会の形は、植物を使った資源循環型社会の形は、

▲菜の花の芽

とよさらだ新

もチャレンジショッ

出来ました。来年度

はスイカなどを販売

野菜を届けることが

中心に新鮮な無農薬

今年は大学の学内で

とよさらだプロジェクトとは

とよさらだプロジェクトは滋賀県犬上郡豊郷町の耕作放棄地と活用し、地

地域の方々と交流をしながら楽しく活動しています。また、とよさらだで は現代の農業が抱える問題点にも目を向け、地域活性化につなげていくこ とを目指している団体です。 を通して様々な野菜を栽培しており、普段なかなか経験できない農作業を 行っています。また直売所やマルシェ等での販売も行っております。年間 域の方に指導をいただきながら、露地とビニールハウスにて野菜の栽培を

出店になりました。 を持っていただけて大変充実した 客さんが来てくれるか大変心配を 屋さんが出店されていたので、お なりました。近くでインドカレー 当日はスープカレーにバケットを て本格的な味に仕上がりました。 らだで栽培した野菜を一部使用し を開発して販売しました。とよさ していましたが、多くの方に興味 つけて提供し、想像以上の人気と 今年の湖風祭ではスープカレー



験ができたと思います。 風祭の出店を通して大変貴重な経 た。自分たちの畑で収穫した新鮮 湖風夏祭の際にも、とよさらだは お客さんの列ができるほど人気な な玉ねぎを使用し、お昼過ぎには オニオンリングを販売していまし 商品になりました。このように湖

> 学生のみなさんのみ だくことが出来て、 にもお立ち寄りいた ならず、教職員の方々 の販売を行いました。 プという名前で野菜 内販売



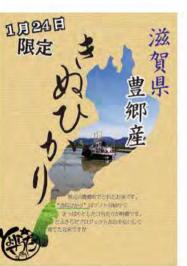
できるように準備中

やカボチャなどを

りました。キュウリ

とても良い機会とな

込めて作ったお米を多くの人に食べていただけ 田を一反お借りして実施しました。夏場も草抜き なったと思います。 あり、昔からの伝統的な文化でもあります。その て、大変うれしく思います。お米は日本の主食で 食堂で使用していただきました。自分たちの丹精 ました。収穫されたお米は学内で精米して、生協 などで定期的に水田を訪れて、稲の成長を見守り お米の栽培にかかわれたことはとてもいい経験に 前からお世話になっている古川ファームさんの水 4月にはメンバーで田植え体験を行いました。 以





地域の声

いるので、わからないことがあ 業をやっている人がいくらでも ほしい。地域(豊郷町)には農 今の若い人たちはあまり農業を 業を理解してさらにいろんな作 張り、自分たちのやっている農 動をもっと活発に行ってほし やらないので、農業を広めると 物を作れるようにしてほしい。 いうことも目的として活動して れば話を聞きにいくなりして活 今いる学生が今年いっぱい頑

活動の振り返り

いきたいと思っています。 物の栽培にも積極的に挑戦して 広めたいです。また、新しい作 することで、もっと販路を拡大 栽培計画が甘かったため、安定 す。ただ販売に向けた1年間の ことが出来たので、よかったで 野菜を販売する機会を多く持つ たことが反省点です。来年度は し無農薬の野菜のすばらしさを しっかりと計画的に野菜を栽培 して販売をすることが難し買っ 今年は昨年度よりも収穫した

座•沖島新聞

Vol.04 2020.3.31



座・沖島とは…

本プロジェクトは「まなぶ・まじわる・ささえる」を目標に活動している。 主に、島民にどんな活動をしてほしいか、私たちに協力できることがある かをヒアリングして、より沖島に根差した活動を目指している。 お祭りや小学校行事などのお手伝いや、座・沖島が主体となっておこな った写真展などの活動を通して、メンバーが沖島について理解を深め、 沖島の活性化の方法を島民と探っている。

沖島ゴミ拾い

昨年度に引き続き、今年度もゴミ拾いを行った。沖島の湖岸に打ち上げられる多くのゴミを回収して綺麗にしようという思いと、活動を通して、座・沖島を島民の方に知ってもらうという目的で行った。 ゴミはまだまだ多いので、継続して定期的にゴミ拾いをおこなっていきたい。

発足4年を終えて

前年度は発足して3年ということで、役割分担に力を入れた。広報や会計などの役職や、イベントごとの担当を決めることで、仕事がメンバー全体にいきわたる機会が多くなった。

そこで、より大所帯での活動となったので、様々な視点からの意見や、アイデア出しなどが増え、活動にも大きく影響した。県を挟んだ協定式や、全国的な会議に参加するなど、活動の幅も増えた。5年目は、更なる仕事の分担と、積極的な交流を深めることのできる活動をしていきたい。

今年度のスケジュール

- 4月 桜祭り
- 5月春の大祭
- 7月 沖島小学校遠泳大会
- 8月沖島夏祭り
- 9月沖島小学校運動会
- 11月「湖風祭」出店 湖魚祭り
- 12月ゴミ拾い
- 1月左義長祭り
- 2月 協定式
- 3月 島民の方との話し合い (協定による補助金の使い方)

沖島のお祭りのお手伝い

今年度も春の大祭や湖魚祭り、左義長祭りなど、数多くの祭りの準備や運営、片付けをおこなった。この活動を通して沖島の文化や風習を知り理解しつつ、沖島の島民の方とこれからも交流を深めていきたい。

沖島住民の声

座・沖島の学生さん達が、春の大祭や運動会に参加してくださることで、高齢者の進んだ沖島の行事に活気が生まれます。また、学生さん達の若い力と笑顔で沖島を元気づけてくださっています。

座・沖島の皆さんは、今や沖島になくてはならない存在です。これからもよろしくお願いします。

発効日:2020年3月31日

チームのビッグニュース

2019年夏に行った茨城県霞ケ浦実習 にて外来魚「チャネルキャットフィ ッシュ」を釣り上げた。サイズは74 cmの大物であり、合同で実習を行っ た茨城大学広域水圏環境科学教育研 究センター内の記録84cmには及ばな かったものの、今期1番の大物であっ た。このような巨大な外来種が琵琶 湖水系で繁殖しないよう、今後も活 動を続けていきたいと思う。



↑外来種チャネルキャットフィッシュ

SDGs関連項目





ロジェクト紹介

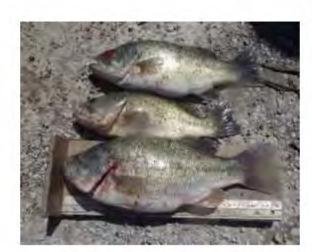
駆除活動:在来魚の豊富な内湖の復活!

内湖(神上沼)に生息する外来魚(オオクチバス、ブ ルーギル)を投網で捕獲、駆除し、同時に在来魚の調 査をしている。

持ち帰った外来魚から魚粉を生成し、肥料として再利 用している。



↑投網をする様子



↑捕獲したオオクチバス

啓発活動:地域の水辺に関心を 持つ

研大

江楽座

地域の子供たちと交流し、身近 な水辺やそこに住むいきものに 興味を持ってもらうことで、子 供たちに将来の水辺を担う存在 になってもらうべく活動してい る。



↑子供たちと交流する様子

プロジェクト自慢

生き物が好きな子も 苦手な子も・・・ みんなが笑顔で触れ 合ってくれます!



地域の方の声

生き物研究会の皆様方にはご多用中にも関わらず、本稿自動の活動の ためにお力添えいただきまして、ありがとうございました。 芹川にいる生き物を、実際に見て学ぶことで、子供たちの興味もいっ そう深まり、もっといろいろな魚を見てみたいと、意欲的に取り組む ことができました。頂きましたナマズも、大切に子どもたちと育てて まいります。

どうか、今後とも城西小学校の子供たちの成長を見守っていただきま すとともに、ふるさと彦根市を大好きだと感じる子供たちの育成に向

けてご支援賜りますようお願い申し上げます。 彦根市立城西小学校くすのき学級担任 高仁 実香



生き物と触れ合う様子

1年の成果と課題

今年は神上沼での定期活動で捕 獲した外来種を魚粉にし多団体 に提供するという新たな試みに 成功した。今後は駆除活動に加 えて地域との交流にもより力を 入れていきたいと思う

Jesuit House プロジェクト









プロジェクト紹介

Jesuit Houseとはセブ市のパリアン (Parian) 地区に位置するJesuit Houseは、1730年に建設されたと言われるフィリピ ンの中でも歴史ある建造物の一つである。もともとはイエズス会の高位な宣教師の住居で、住居は二棟構成で、各棟は連絡 橋で繋がっている。母屋は一階及び、二階ともにサンゴ石で構築されている。別棟の一階はサンゴ石、二階は木材で造られ た混構造になっている。また木造部分の屋根の構造と粘土瓦は中国の影響を多分に受けている。そのために明王朝時代の陶 磁器も発見されている。現在の用途としては、母屋の一階はスグボ・ギャラリーと呼ばれる博物館になっており、資材置き 場などとしても活用されているが、建物の状態としてはかなり劣化している。

また、Jesuit Houseは、ボホール島地震において、屋根瓦の一部が破損した。それにより母屋の一階部分である博物館に まで雨漏りの影響が見られる。また外壁には亀裂が入り、今後発生が予想される自然災害によって全壊する可能性が高いと 考えられる。



パリアン地区は中小企業のオフィス街として栄えたが、会社の大規模化やマーケットの一極化 により空き家や空き店舗が増加している。 一方で路上生活者も多く、それに伴い治安が悪化 している。また、この地区には、中国系メスティーソが多く住む、少なくとも 400 年前のスペ イン植民都市時代には形成されていた。 Jesuit House は現在、地区の博物館として利用され ているが、その存在はあまり知られることなく、建築資材置き場に博物館が隠れてしまっている。 また、パリアン地区では建物が密集し、交通量も多く街路が狭いため、子どもが安全に過ご せる場所が少ない。また、子どもがお酒やタバコ、ドラッグに手を染めてしまう危険性がある。

目的

以上のことから、本プロジェクトでは、この伝統的建造物を保全すると共に Jesuit House を含 む敷地一帯を地域コミュニティの拠点とすることを目指す。 そうすることで、 歴史価値の継承法 と空き家、古い建物の活用法を目に見える形で示すことで、地域イメージの回復や歴史ある 古建物を有する地区への波及効果が期待でき、維持管理などを地元の人に依頼するなど、 新たな雇用を生み出し、子どもの正常な生育を期待できる。 滋賀県立大学としては、フィリピ ンでの活動拠点とネットワークが得られる。また、現地の教育機関を交えることで教育プログラ ムの発展や、学生の問題意識の国際化が期待できる。

今年度の活動

1. 遺産修復計画ワークショップ (2019.9.14-9.20)

○概要

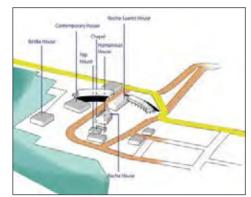
- ・ボホール島・タグビララン市の地域計画
- Jesuit House のギャラリー計画
- ・ Jesuit House 周辺スラムの整備計画
- ・建築学校の見学
- ・NPO 法人「7スピリッツ」の訪問

滋賀県立大学、芝浦工科大学、ホーチミン市建 築大学が参加し、ボホール島ではタグビラランの 地域計画、セブ島では Jesuit House のギャラリー 計画と Jesuit House 周辺スラムの整備計画を考え て市長やオーナーに対してプレゼンテーションをし た。タグビラランの都市計画ではいかに周辺の例 史的価値のある住居を活かせるかなどが鍵となり、 Jesuit House のギャラリー計画、スラムの整備計画 では動線計画やデザイン性、水資源の汚染など 現状での問題を見極めてうまく解決することが求め られた。どれも非常に難しく、それぞれ2日程度 かけて日本人学生とベトナム人学生との間では皆 英語を用いて案を出し合い、学生間で夜遅くまで 議論を深めた。

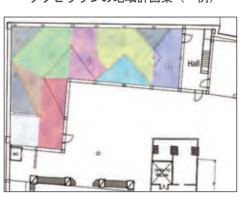


2. SITIO PANTIN 復興計画

SITIO PANTIN と呼ばれる Jesuit House 周辺の スラムで大規模な火災が発生しその地域一体が 焼け野原となってしまった事態を受け、それに対 し何か出来ることはないかを現在考えている。セ ブ市の政府のマスタープランとすり合わせながら これまであったコミュニティをさらに良い形で提案 することを目標としている。



タグビラランの地域計画案 (一例)



Jesuit House のギャラリー計画案(一例)



コミュニティスペース模型

3. コミュニティ復旧ワークショップ (2019.12.13-12.20)

○概要

- ・ 寄付金を募る水彩画の展示
- ・養護施設・避難所・孤児院の訪問
- セブの高校でのプレゼンテーション

本活動ではパリアン地区のコミュニティに 潜入し、復旧させることを目的とした。約 1ヶ月前に Jesuit House 周辺のスラムで 大規模な火災が発生し、多くの人が住む 所を失い、生活が困窮した。それゆえ今 回は彼らに食べ物、玩具などを提供する いわゆるボランティアのような内容が多く、 それにより我々をより受け入れ、 心を通わ せて話をしていただけたように思う。その 他にも子供たちや学生とも交流し、この ワークショップによってセブ、パリアン地区 のコミュニティについて深部まで知り、プ ロジェクトとして関わり合いを深める機会と なった。これからも携わっていく地を知り、 そこに住む人々たちと理解し合い、信頼



スラムの焼け跡





避難所での配給の様子

孤児院での配給の様子

4. クラフトジュエリーワークショップ

火災に遭った子供達や孤児達を対象にし て、手作りでアクセサリーなどを作るワー クショップを行った。 行き場がなくスキルを 身につけられない子供達に新たな技術を 教え、プロジェクト活動のコミュニティを広 げた。

関係を築くことは非常に重要である。





ワークショップの様子

5. 情報発信

現在 Jesuit House プロジェクトとして Facebook にて情報発信 をしている。更新頻度は決して高くはないが、セブに行って ワークショップを丘なった際や、Jesuit House の周囲に大きな ことが起こった時などには情報を共有、 発信している。 投稿 は英語、日本語それぞれで文章を載せ、多くの写真を掲載 することで日本に住む人とフィリピンに住む人や海外の人達そ れぞれが気軽に読んで理解できるように心がけている。



プロジェクトの Facebook ペー

地域の声

サポーター Earnest さん (学生の Jesuit House ギャラリー計画案について)

Jesuit House プロジェクトでのそれぞれの計画案はセブにおいて非常にユニークなものだっ た。ただ、主な問題の1つに古くからの住居と歴史についての可能性の欠如があった。し かし、古い家と提案された展示スペースの間にオープンスペースを導入するという学生のア イデアは素晴らしいと感じた。私はそれが訪問者の体験を改善し、同時に博物館と都市の 間の接続を確立できると思う。

成果と課題

遺産修復計画ワークショップでは、Jesuit 周辺の計画を初めて関わる東京とベトナムの学生と問 題整理しながら考えられたことで新たな視点で物事を見ることができた。 また 12 月には火災を 受けてプロジェクトとして自分たちに何ができるかを再考することとなり、そこに住む人たちと距 離を近くして多様なコミュニティに関わり合い力になることが出来た。 今後も現地の方々に寄り 添い、自分たちがすべきことと出来ることを見極めて大元である Jesuit House をはじめ、活躍 できる場を見つけて多様なコミュニティに参入していくことが必要である。



ハティヤール村カディプロジェクト

近江楽座2019カディプロジェクト 2020年3月31日



ハティヤール村カディプロジェクトについて

プロジェクトの概要

インド、ビハール州のブッタガヤ近郊に位置する貧困地区ハティヤール村において、近江八幡とインドに拠点を置きながら服を作るNIMAI-NITAIとの共同によるフェアトレードを通じた村内の女性雇用と生活環境の向上を目指すことを目的としています。

プロジェクトの背景・目的

2018年度から継続的に進めてきた現地調査と村長をはじめとした住民とのワークショップによって、女性雇用のためのカディ工房の建設を目指した「カディプロジェクト」を実施することになりました。

この工房建設によって、男性は建設技術を身につけること、女性は、カディと呼ばれる手紡ぎ手織りの生地、を生産する技術を身につけていくことが目標としています。

プロジェクトの内容

カディ工房の建設過程から村の住人と共同しながら建設技術の指導を行い、 竣工後の建物の修繕・維持管理ができる体制を作ります。続いて、村全体のコ ミュニティと連携を取りながら、女性を対象とした糸紡ぎの技術支援・就労支 援を行うい、この雇用創出から、さらに住環境の整備や教育環境の充実を持続 的に行えるようにしていきたいと考えています。具体的には、滋賀県立大学学 生による水場の設置や子供教育の支援、カディ工房への体験学習プログラムの 企画などを継続的に進めたいです。最終的にはハティヤール村において「持続 可能な自立支援型モデル」を確立させ、周辺地域の貧困地区に応用させていく ことを大きな目標として活動に取り組んでいきます。

カディエ房4月から建設スタートか

ハティヤール村に入り込んでから2年の月日を経て、今年の4月からようやく 建設をスタートすることになりました。発展途上国ならではの問題に直面した り、慣れない気候に体調を崩すことも多々ありましたが、関係者や現地のサポートもあって無事に4月には着工を向かえることができそうです。

カディプロジェクトでは現在、現地の自然素材をふんだんに活用した工房の計画・設計を行っています。現地の住民と共に試作を作る中で、住民から意見を頂き、共に議論することで試作の質を高めていく事ができました。一つの地域に入り込んで活動することの重要性を改めて実感する事ができました。





地域の声

2020年3月16日までに本助成金にて、カディプロジェクトで建設した工房で、ハティヤール村の女性たちが製作したコットン糸でカディ布の完成までを目標としていましたが、現地調査が予定よりも遅れ、2021年2月に目標を再設定した。予定より遅れた原因として、慎重にハティヤール村の人々の関係を築き、土地及び建材の調査を行ったことがあげられる。橋本さんの長期滞在もあり、時間をかけ丁寧に行っていることによって、現地では「自分ごと」として取り組んでくれている人が多いことは非常に評価できる。フェアトレードに関わる活動に関しては、実施すらできていないものの、韓国系のNGOが主宰するSujata Academyを訪問し、ハティヤール村の女性たちの中で特にカディの糸紡ぎ就労を希望する6名を同行し、実際に指導してもらった。その結果、全ての女性が、スムーズに作業できることがわかり、ハティヤール村で実現できるという核心を得ることができた。工房建設後には、できるだけ早く就労につけるよう、事前自主訓練も行うため、本助成金で予定していたように、ハティヤール村のカディ工房でできた糸が、生地となり、フェアトレード商品を制作できる可能性は確実と考える。

合同会社NIMAI NITAI 廣中 桃子



1年間の活動を通した成果と課題

今年度はフェアトレードの活動を行っていく上で必要な工房建設に関連した作業を中心にフェアトレードの活動とカディ工房建設に関連した活動を行ってきました。

まず、フェアトレードの活動に関して、実際にカディが生産される過程の視察を行いました。本プロジェクトの敷地のあるブッタガヤはインドのビハール州ガヤ県に位置しており、この地域にはカディ組合ガヤ支店があります。このカディ組合はガヤ県内あるいは周辺地域にカディ工房を複数所有しており、それらのカディ工房で紡績を行い、カディ組合が糸を買い取ることで現地住民(女性)に給料が支払われるという仕組みになっています。カディ組合ガヤ支店の視察では、紡がれた糸を布に仕立て、その布を販売している様子を見学しました。また、カディ組合が所有するカディ工房(Sujata Academy内にある工房)にも訪れることもでき、現地の女性が働く姿や実際に工房が稼働している様子を視察することでカディが生産から販売に至るまでの一連の工程を確認することができました。





次にカディ工房建設に関連した活動に関して、主に現地で入手可能な自然素材を用いた実寸のモックアップ(実寸大の試作)の制作を中心に行いました。本プロジェクトの対象敷地であるハティヤール村では、村周辺で採取可能な自然素材を用いた暮らしを見ることができます。

今回、カディ工房の設計を進めるにあたって、現地の生活や住宅に関する調査から現地住民と共に自然素材を用いたモックアップの制作を行うなど、現地に入り込みながらの活動を重点的に行ってきました。その中で、彼らの生活の知恵や日常的な技術(ロープワーク、藁ぶき屋根の葺き方等)がカディ工房建設に応用可能な点、また、一方で現地の自然素材を用いた住宅には雨水に対する土壁や藁葺き屋根の耐久性があまり無いという点が調査、モックアップを通じて明らかになってきました。





今年度の活動はフェアトレードの活動を中心としたものではありませんでしたが、カディが手で紡がれていくように、カディ工房建設も現地住民が培ってきた手作業(活の知恵や日常的な技術)をいかに取り入れていくかが重要であると感じました。また、現地の技術ではクリアできていない雨水問題などは、日本の自然素材のプロフェッショナルである左官職人や茅葺職人に実際に現地に足を運んでもらい技術指導を行ってもらう事で、現地の自然素材に対する技術のアップデートが可能になると考えています。

カディプロジェクト代表 橋本光祐